



遊ぶ、食べる、

目指したことがきっかけでした。令和元年、そして令和3年と2度にわたる豪雨災害の発災から、たくさんの人と人とのつながりや支え合い、多くの災害支援を通してこの絆サンマ祭りが生まれました。

被災を経験した大町町だからこそ「今度は私たちが支援する番」そんな思いを込めて、絆サンマ祭りのテーマを「被災地から被災地へ恩返し」と題し、会場内に募金箱を設置しました。寄せられたお金は被災地支援に活用させていただきます。

「ならでは」がまちに活気を取り戻す鍵

新型コロナウイルス感染症の影響により、行動制限や3密回避が求められている昨今。2年間で2度にわたる豪雨災害も経験し、自粛ムードに包まれていました。

そうした中、かつての熱気と活気を、再びこの地に集めるためには、この町をもっと知ってもらうための「きっかけ」が必要です。今回の絆サンマ祭りの企画には、行政、CSO、企業、そして地元の中高生が加わり、県内のほかにはない、大町町ならではのカタチで企画・準備を進めました。

被災したからこそ築けた絆が、大町町ならではの取り組みに変わり、まちに活気を取り戻す鍵となる。そんな可能性を肌で感じた1日となりました。